

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	長井市すみれ学園		
○保護者評価実施期間	令和6年12月4日 ～ 令和6年12月26日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数) 15人
○従業者評価実施期間	令和6年12月4日 ～ 令和6年12月26日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13人	(回答者数) 13人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士、看護師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士など多職種で連携し、支援している。	それぞれの専門職が対象児童に関わることで、対象児童の成長につながっている。また、外部研修にも積極的に参加するようにしている。	ケース検討会を開催したり、さらに個々の力をのばすための工夫を行いたい。
2	保育所等の日課と同じような流れにしている。	就学をみすえ、支援を行っている。毎日同じ日課にし、活動にメリハリをつけるようにしている。	利用人数が増えてきているため、年長と年中以下のクラスに分け、その年代に合わせた日課を検討しながら支援を行っている。
3	長井市直営の施設である。	長井市の子育て推進課、健康スポーツ課、福祉あんしん課と連携しながら支援を行っている。	利用児童やその保護者のニーズをお聞きしながら事業を実施していく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	気軽に相談できる場が少ない。保護者同士で交流する機会が少ない。	特に送迎サービスを利用している場合は保護者とお会いできる機会が少ない。毎月すみれカフェを行っているが、平日に開催しているため参加できない保護者もいる。	すみれカフェ以外にも保護者が集まり、お互いに相談したり、保護者同士で交流できる機会を検討していく。
2	地域交流がうすい。	コロナ禍、事業所の移転もあり、地域との交流が減っている。	避難訓練やすみれ学園の行事に地域の方を招くことなどを検討していく。
3	第三者による外部評価を行っていない。	外部評価を行う体制作りができていない。	来年度以降外部評価を検討していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		長井市すみれ学園		公表日		令和7年2月14日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		基準を満たしているが、利用児童数が多い時間帯は個別のスペースが足りないと感じることもある。利用人数が多い時間帯は外遊びや園外活動をしたり工夫しながら活動を行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		基準を満たしているが、保育所等訪問支援や送迎等が重なり一時的に人手が少なくなることがあるが安全面に配慮しながら活動を行っている。個別支援、複数支援を組み合わせながら活動を行っている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		新築なのでバリアフリーであり設備等は整っている。	ホールでは音や声が反響して周りの声が聞こえなかったり、音に敏感な人は心地よく過ごせない可能性がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		場面場面で教室の清掃を行っている。個々に合わせて落ち着いて活動できるようコーナーを作ったり活動部屋を区切って行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			振り返りはできているが、目標設定が職員全員に共有できていない部分があり、今後職員全員で共有できるようにしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者向け評価表は年に1回行っており、今回出た意向等を今後の支援に生かしていく。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		自己評価を行い、ホームページで公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在は行っていないため、来年度より実施を検討したい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		資質向上のため、様々な研修に職員が参加している。	

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析するまでには至っていない。これまで以上に適切なアセスメント、分析が必要と考えている。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			アセスメントを行っているものの、まだ改善すべき点はあるため今後検討しながら進めていく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			具体的な支援内容の設定についてはまだ課題があるため、今後検討しながら行っていく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			個々の目標を考えながら対象児童と関わるようにしている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			活動プログラムについては各担当で話し合いながら決定している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		外遊びや園外活動をしたり様々な活動プログラムを行っている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別活動、集団活動を組み合わせながら目標設定を行っている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝朝会会議を行い、その日の支援等について確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		全員に共有できていないことがあるが気付いたことはその都度職員間で話し合っている。	振り返りがその日のうちにできない時もあり、朝会会議などで共有するようにしているが、時間がなくて情報共有が不十分な時があったため、時間を見つけて職員で共有できるようにしていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		ケース記録の記入を必ず行っている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的にモニタリングを行っている。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		会議の検討内容に合わせご家族だけでなく保育園の職員や市役所職員等の参加をお願いしている	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		長井市の健康スポーツ課や子育て推進課と連携を図っている。	
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		保育所や小学校、教育委員会と連携を図っている。	

関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		主治医からの指示書の元、支援を行っている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育所等訪問支援を行い情報共有をはかっている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育所等訪問支援を行い情報共有をはかっている。移行支援として教育委員会や学校と連携し情報共有を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		他の事業所と連携を図りながら支援を行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			併用している保育所の子ども達とそれぞれ交流している。また、園外活動の際に、ほかの子どもたちと接する機会もある。
	29	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		園長が参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		お会いできない保護者の方には、連絡ノートやお便り、電話などで利用児童の状況をお伝えしている。お会いした保護者には都度利用児童の状況をお伝えし、共通理解を持てるよう努めている。	
保護者へ	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		市で行っているペアレントプログラムの参加呼びかけや月1回のすみれカフェ等で研修を実施したり相談や情報共有している。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用開始時契約の際に必ず説明を行っている。	説明は丁寧に行うよう心掛けているが保護者の方に十分に伝わっているかわからない。不明な点は都度聞いてもらい対応していく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			5領域を念頭に計画を策定していきます。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		面談等行い必要な支援を行っている。相談等があればその都度対応している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		父母の会はないが、すみれカフェを開催しており、保護者通しの交流の場にもなっている。	すみれカフェに参加できていない保護者の方もいるので、悩み等を相談したりする場を提供できるよう検討したい。

の 説 明 責 任 等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		契約時に体制について等説明している。日頃から家族と話す機会を多く持つようにし、ご要望が聞かれた際にはすぐに対応するよう心掛けている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		園だより、機関誌「ほっぺ」を作成し発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		連絡ノートを活用している。母国語が日本語以外の保護者もあり、ひらがなで連絡ノートの記入をする等配慮している。お迎えの時極力今日行ったプログラム、体調等を話すようにしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		テレワーク室の利用や施設見学の受け入れ等を積極的に受け入れている。	行事への招待については今後検討していく。
非 常 時 等 の 対 応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		各種マニュアルの策定を行うとともに決められた回数の訓練を実施している。	保護者への周知については今後検討していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練等決められた回数実施している。	保護者への周知については今後検討していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書を作成している。	ヒヤリハットについて積極的に報告するようにし、事業所内で共有していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			身体拘束の必要な対象者はいない。やむを得ず身体拘束が必要な場合は、十分に説明し了解を得たうえで、児童発達支援計画に記載する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	長井市すみれ学園
------	----------

公表日 令和7年2月14日

利用児童数 18人 令和6年12月26日 回収数 15人

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	14	0	1	0	・広くなりのびのびと過ごせている。	新しい園舎でみなさん活発に活動されています。利用人数が多くなる時間帯は外遊びや園外活動をしたり工夫しながら活動を行っています。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	14	0	0	1	・おたよりにて子どもの一日がわかる	今後も利用人数にあわせた適切な職員配置を行ってまいります。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	15	0	0	0	・げたばこもわかりやすく玄関も広くなった。	新しい園舎は車いすの方でも利用しやすくなりました。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	15	0	0	0	・新しくなり体をいっぱい動かしている。	広いホールでは体を動かしたり、活動室では創作活動をしたり、子どもたちの活動に合わせて各部屋を利用しています。
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 <u>児童発達支援計画*2</u> が作成されているか	14	1	0	0		
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	14	0	0	1		
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	13	1	0	1	・その子につききりとはいかないと思うが前の方がよかった	利用児童の目標に合わせて個別でのかわり、集団でのかわりを行っています。
	8	<u>活動プログラム*3</u> が固定化しないよう工夫されているか	11	2	0	2	・プログラムを理解していない	保護者の方に向けて具体的な活動プログラムの紹介などを検討します。
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	12	1	0	2	・月～水保育所、木金すみれ学園利用だが年長になると差が出てくる。 ・保育所との併用なので全く不満などない。	併用している保育所の子ども達とそれぞれ交流しています。また、園外活動の際に、ほかの子ども達と接する機会もあります。
	10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	14	0	1	0		

保護者への説明等	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	13	1	0	1	
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング*4等）が行われているか	7	3	2	3	・週に1回の利用の時しか先生方とお話できないためペアレントトレーニングなどは難しいのかもしれない。機会があればすみれカフェに参加してみたい。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	15	0	0	0	
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	10	4	0	1	・先輩方の話を聞く良い機会であるが、兄弟平等となると難しい。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	8	3	0	4	・父母の会があることをしらなかった ・すみれカフェで保護者同士だけではなく事業所の枠を超えた交流ができていると思う。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	13	0	0	1	
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	12	1	1	0	連絡ノートやお便り、電話などで情報交換を行っています。送迎時などで保護者の方とお会いした際は都度利用児童の状況をお伝えするよう努めています。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	12	1	0	2	・ホームページがあることを知らない
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	15	0	0	0	・そうとはいえない

市でペアレント・プログラムを実施しているためひとりでも多くの保護者の参加を呼びかけたいと思います。

すみれカフェに毎月1回開催しており、情報交換をいただいています。参加できない保護者もおりますので今後対応を検討したいと思います。

園だより、機関誌「ほっぺ」で活動の様子や行事予定について等の情報発信を行い、長井市のホームページでは自己評価の結果公表等を行っています。

個人情報の取り扱いについては十分注意し、管理しています。

非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	9	1	0	5	・わからない ・週1回の利用のため避難訓練等に参加するのが難しい。	各種マニュアルの策定を行うとともに決められた回数の訓練を実施しております。今後、保護者の方に安心していただけるようマニュアルの紹介等を行っていききたいと思います。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9	2	0	4	・見えないのでわからない ・週1回の利用のため避難訓練等に参加するのが難しい。	今後、訓練を行った場合、園だより等での報告を行っていききたいと思います。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	14	0	0	1	・その日による ・とても楽しみにしている	今後ちすみれ学園への通所が楽しみとなるよう、職員一同努めてまいります。
	23	事業所の支援に満足しているか	13	2	0	0	・前の方がよかった ・STの訓練で言葉がのびてきていると思う ・個別支援で成長できているように思う。	保育士に加え、看護師や言語聴覚士、作業療法士、理学療法士などさまざまな職種で支援しています。今後も利用児童の成長につながるよう努めてまいります。

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目指している。